空調タイムス
2011年〈平成23年〉4月13日(水曜日)

緊急課題の節電をメンテ技術で実現

省エネ、衛生管理を〝見える化〟

＝エアコンクリーニング協会＝

スマート・ウォッシングビジネスなど柱に

西村　直人理事長

エアコンクリーニング協会（会員数41社・理事長＝西村直人氏）は今期、「スマート・ウォッシングビジネス」と「有期実習型訓練の活用」に積極的に取り組んでいく。

「スマート・ウォッシング」は西村理事長の造語。省エネと衛生管理を数値やデータで〝見える化〟し、洗浄の最適なタイミングをユーザーに提示する取り組みを「スマート・ウォッシングビジネス」（賢い洗浄方法の提案）と命名、エアコン洗浄のビジネスモデルとして提唱したもの。

省エネでは既にエアコンの汚れによる電気代ロスの〝見える化〟ツールとして協会独自で「汚れ度診断表」を作成している。同診断表は、送風ファン・アルミフィン・ドレンパンの汚れを5段階にランク分けし、各段階における電気量のロスを試算したもの。昨年11月には、この診断表のデータを裏付ける計測結果などを冊子「スマート・ウォッシングビジネスとは：」にまとめ、会員企業に配布した。同冊子も活用しつつ、エアコン洗浄による電気代削減効果を数値化して提案していこうという取り組みである。

衛生管理面では、ATP検査測定器を用いた汚れ度診断（ATP測定法）による営業手法を取り入れた。

ATP測定法は、すべての生物の細胞内に存在するアデノシン三リン酸（ATP）を酵素などと組み合わせて発光させ、その発光量をわずか十数秒で数値化する測定法。操作方法も簡便で、24時間以上も必要な従来の培養法に比べて迅速に結果が分かることから、食品・医薬品・化粧品・病院・清掃・メンテナンスなどの幅広い現場で衛生検査ツールとして活用されている。とくに、食品分野では加工機器や調理器具・用具の洗浄効果を判断する自主管理ツールとして普及が進んでいる。

また病院や高齢者施設では、院内感染予防や交差汚染リスク低減の一環として、ドアノブやスイッチなどの「タッチポイント」を衛生的に保つ清潔管理や清掃後の効果の確認にも同測定法が採用されている。

協会では昨年、エアコンの熱交換器アルミフィンのカビ汚染や微生物汚れの測定に同検査器を使用することで衛生管理面を数値化（見える化）する「ATP検査事業」の推進を活動方針として提案した。

今期はこれらの手法を「スマート・ウォッシング」というビジネスモデルに再構築し、会員へ営業手法として提案することで、業界における差別化とブランドの確立を目指していく。

もうひとつの取り組みに掲げた「有期実習型訓練」は、事業者が商工会議所を通して雇用能力・開発機構にキャリア形成促進助成金申請のための所定の手続きを行ない、要件を満たした場合、訓練受講者と事業者に助成金が支給されるというもの。

協会では助成金申請の支援にあたるほか、社外研修の受け皿となり教育プログラム作成と講師の手配などでバックアップする。

有期実習型訓練は、2008年4月から実施された「ジョブ・カード制度」の職業能力形成プログラムの一つ。

優秀な人材確保のため、新たに雇用して訓練を実施する場合や、既に雇用している自社内のパート労働者等の非正規労働者に訓練を実施する場合に利用できる。

同協会会員企業の業種は様々。本業の傍ら、サイドビジネスとしてエアコンクリーニングを手掛ける会員も少なくはない。

「まずは会員にこの訓練を活用してもらい、エアコンクリーニングの技術をブラッシュアップしてほしい。さらに、雇用を促進しながら、それぞれの地域で協力できる仲間をつくっていく。それがやがてはブランドとしての知名度を高め、会員増強に結びつくのではないか」と西村理事長。

「スマート・ウォッシングビジネスとは：」はこれより前に作成した冊子「なぜエアコンを洗浄する時代が来たのか」「エアコン丸洗い事業概論、技術編」とともに、同訓練のテキストとしても活用する予定。そして、この取り組みを資格制度確立の布石とも位置づけ前期に引続き「エアコン洗浄診断士」制度の準備作業を進めていく計画である。